

【シンポジウム概要】

シンポジウム全体のテーマは「成長する技術職員組織」である。

前半講演、後半パネルディスカッションの2部構成で実施した。

講演では「これまでの5年」というテーマで、6大学（熊本大学、九州工業大学、山口大学、名古屋大学、金沢大学、早稲田大学）の大学技術職員組織の管理職にご登壇いただき、各大学のこれまでの5年間の取り組み、5年間の取り組みから明らかになった課題についてご報告いただいた。各大学の報告概要を以下に共有する。

○ 熊本大学

熊本大学では、迅速に高度な技術を大学へ提供できる体制や、より教育研究の向上に寄与できる人材を育成する体制を構築するために技術職員の組織化を実施した。組織化により技術職員の連携を強化し、効果的な実験実習の実施や快適な研究教育環境づくりへの寄与等、高度な教育や先端研究に技術職員の技術力を生かし活躍の場が広がることを期待した。教育研究組織、事務組織、技術組織がそれぞれの責任を明確にして協働することが大学の教育研究力の強化促進には重要である。技術部の運営ではガバナンスの強化が重要であり、会議体を通じて方針の決定や意思統一を図っている。熊本大学イニシアティブ 2030 に沿った組織の目標に沿って各技術職員も目標設定し業務を遂行している。また、技術職員の業務について分析を行い各技術職員の業務エフォートの分布を明らかにした。組織化により様々な問題が顕在化してきたが、技術の提供先である教員及び提供元の技術職員のそれぞれの意識改革を行っていくことが今後の課題である。

○ 九州工業大学

九州工業大学では、大学組織の改正により技術職員組織が管理本部技術部として再編され、目標管理を徹底することに注力した。技術部の方針と方策は管理本部の指針に基づいて決定し、活動と人材の効率化を方針に活動してきた。その中で、技術業務の分析を行い業務の可視化を実施した。技術業務調査では教育・研究・情報基盤・安全衛生の項目を重点的に調査し、技術レベルや業務時間の割合を分析した。これにより、技術部の状況を明らかにできた。大学への継続的な貢献を確保するために、人員採用や適材適所の人事異動の実施、そして構成員の意識改革が課題として挙げられる。これらの解決により、大学の運営において技術部が主張できる立場を確保し、技術部の活動と人材の効率化を目指すことが出来ると考えている。今後も技術部の改善や業務の最適化に取り組んでいく予定である。

○ 山口大学

山口大学では、全学組織化以前から技術職員組織の在り方に関する議論を続けてきた。技術職員のキャリアパスや人材育成の不十分さ、管理職の不在などの課題を解決するため議論を続けてきた。また、技術職員の活躍の可視化や研修の経費確保に注力し、業務効率化と成果最大化を目指して工学部内技術部の整備を行ってきた。その後、コアファシリティ構築支援プログラムに採択されたことで、全学の総合技術部として組織化された。キャリアパスの整備、高度人材の育成、高度技術者集団の形成を重視し、総合技術部の組織体制を構築した。マネジメントトラックとマイスタートトラックのダブルトラック制度を導入し、能力評価と業績評価による人材育成の推進、さらに、テニユアトラック制度や他大学との連携による高度人材育成プログラムの構築にも取り組んでいる。人材の育成、人材の評価やこれらとチーム共用との関係性を課題として今後も検討

を進めていく。

○ 名古屋大学（東海国立大学機構）

名古屋大学では、定員削減や公平な技術支援体制の構築を背景に全学技術センターを設立した。組織化には試行期間が設けられ、人事制度やキャリアパス、人事評価などの制度設計や設備・機器アドミニストレーターという技術職員の新たな活用方法の模索、ワンストップ技術相談窓口の設置など、研究基盤の支援に取り組んできた。全学技術センターには運営委員会や企画室が設置され、部局との連絡や組織の安定な運用に取り組んできた。研究基盤を支える様々な取り組みをこれまで実施してきた。より安定した研究環境の提供を目指し、全学技術センターによるメリットを活かして教育・研究支援の強化を今後も推進していく。さらに、東海国立大学機構の発足に伴い、統括技術センターが設置され、名古屋大学と岐阜大学の技術組織の統合や研究力の強化への展開が課題となっている。

○ 金沢大学

金沢大学では、総合技術部が5年前に設立され、2つのキャンパスで業務を行っている。コアファシリティ構築支援プログラムの採択をきっかけに活動が活発化した。総合技術部設置により、管理職や人事評価のシステムが整備された。管理職の設置や人事評価（職階の認定や昇給等）のシステムを整えた。さらに、高度技術専門職員の認定制度を構築し、技術職員のキャリアパスを構築した。また、技術職員の新規採用活動も総合技術部が主体となって実施している。人材育成にも力を入れ、コアファシリティ事業により様々な研修を実施している。その他、受託業務を多く展開し、技術料収入を得ており、予算も総合技術部で運用するようになった。技術開発、技術の習得、技術伝承、技術部内外の交流を目的として実施している総合技術部プロジェクトは、組織内の競争的資金として実施し組織予算を投入している。課題としては、ヒューマンスキルを技術スキル向上に生かす仕組みの構築、高度技術専門職員の手当増額や予算の運用法、受託業務の採算性の検討、業務の偏り、そして研究支援体制の構築が挙げられる。

○ 早稲田大学

早稲田大学の技術職員は、キャンパスの移転をきっかけに50年以上前に組織化された。理工学部の学生実験を支援するために共通実験室を設置することに合わせた組織となった。組織の運営は、実験室を利用する学科の教員と技術職員で運営委員会を構成して進められた。早稲田大学の技術職員は実験実習科目での多人数教育の対応という観点から組織化された。その後、組織改編や研究支援部門の設置などを行い、技術職員の役割の高度化や専門技術を持った有期雇用の嘱託職員の活用などを盛り込んだ将来像を策定し、理工学部のセンターの技術部に体制を移行し、組織に管理職が設置された。また、技術職員に教員資格を付与する規定が制定された。人事異動の一環としてジョブローテーション制度を導入し、キャリアパスを確立している。また、人事部の管轄下で人材育成プログラムや制度が整備され、階層別研修や海外派遣研修、技術職員独自の研修などを通じて職員の成長支援を充実化している。早稲田大学の課題としては、全学的な技術支援体制や技術職員の役割拡大、要員の確保・拡充などが挙げられる。また、若手技術職員の採用活動も積極的に実施している。

シンポジウム後半では、「これからの5年」というテーマを設定し、シンポジウム前半の各大学の報告「これまでの5年」で明らかになった組織の課題を共有しつつ、これからの5年を見据えて技術職員組織の成長についてパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは、「技術職員の意識、意識改革」「組織化のメリット・デメリット」「技術職員・技術職員組織の役割・位置付け」「(技術職員・技術職員組織) 次のステップに進むためには」を話題としてディスカッションを展開した。また、令和5年度に全学の技術職員組織として組織化が予定されている琉球大学の状況について講演いただいた。パネルディスカッションの最後に、各大学の登壇者から「技術職員組織の成長」について以下の意見を得た。

○ 琉球大学 屋比久氏

大学の経営というキーワードを意識して日々の業務にあたる事によって、一技術職員が大学の経営に何かしらの貢献ができると考える。その貢献が組織の成長へとつながる。

○ 金沢大学 白石氏

人材育成と正当な評価を含む円滑な組織運営。組織の運営が円滑に進むということは絶えず目指すことである。

○ 山口大学 渡邊氏

組織の成長の根本は人である。人の成長を組織が後押しするそれができることで組織としての成長が見える

○ 熊本大学 上村氏

組織を成長させるための組織づくりではない。大学のため、社会のために個人で何ができるのかを気づき行動する。その行動を後押しするのが組織であり、成長へとつながる。

○ 九州工業大 修行氏

大学への貢献等の役割を個人が自覚して、それを達成することによって個人が成長し、その集合体が組織の成長である。組織の成長は個人にある。

○ 名古屋大学 古賀氏

技術職員一人一人のマインドをどう変えられるかが組織の成長に掛かっている。技術職員それぞれのモチベーションやマインドの成長が組織の成長につながる。

○ 早稲田大学 高木氏

変化し続けること。新しいことへのチャレンジ等を組織として具現化することを繰り返すことで生まれるさまざまな変化が組織の成長となる。

技術職員組織の成長について大いに議論ができた。金沢会議を機に議論の輪が広がり、様々な場でこれらの醸成が行われることを期待して金沢会議シンポジウム「成長する技術職員組織」を終了した。

最後に大学技術職員組織研究会特別顧問の東京工業大学江端教授から講評をいただき、大学技術職員組織研究会金沢会議を終了した。

【プログラム】

10：30 開場 (受付・配信開始)

第一部 大学技術職員組織研究会 2022 年度総会 (11：00～12：00) 司会：杉山 博則

11：00 金沢会議 開催挨拶 (大学技術職委員組織研究会 評議員)

11：10 総会

1. 2022 年度活動報告
2. 企画について
3. 次年度開催について

12：00 休憩

第二部 シンポジウム (13：30 ～ 17：00) 司会：栗原 由美

(13：25 配信開始)

13：30 挨拶 実行委員会委員長 濱 貴幸

13：40 シンポジウム 1 講演 「これまでの 5 年」

上村 実也 氏 (熊本大学 技術部 技術部長)

修行 美恵 氏 (九州工業大学 管理本部 技術部 部長)

渡邊 政典 氏 (山口大学 総合技術部 部長)

古賀 和司 氏 (東海国立大学機構 統括技術センター技術支援統括室長)

白石 昌武 氏 (金沢大学 総合技術部 生命部門部門長)

高木 祐治 氏 (早稲田大学 理工学術院統合事務・技術センター 技術部長)

15：10 休憩

15：30 シンポジウム 2 ディスカッション 「これからの 5 年」

○ パネルディスカッション「これからの 5 年」技術職員組織の成長を考える
パネリスト

熊本大学 上村 実也 氏

九州工業大学 修行 美恵 氏

山口大学 渡邊 政典 氏

名古屋大学 古賀 和司 氏

金沢大学 白石 昌武 氏

早稲田大学 高木 祐治 氏

モデレーター

金沢大学 杉山 博則

○ 講演

琉球大学 屋比久 祐盛 氏

16：50 講評

江端 新吾 氏 (東京工業大学 教授/大学技術職員組織研究会 特別顧問)

17：00 閉会挨拶